

MLA 連携〔論〕を素地とする建学者アーカイブの構築の意義と展望(承前)

— 花蹊記念資料館 (M) 収蔵資料総合目録データベースおよび大学図書館 (L) 蔵書 OPAC と 花蹊日記全文テキスト (A) の三者連携システムの構築の実装化へ向けた試行的研究から

On the Meanings and Views towards the Construction of Digital Archives for Academic Institutions' Founders based on the Ideas of MLA Collaborations (continued): through the Trial Construction of the Prototype System of Bridging MLA - M: The Kakei Memorial Museum of Atomi University, L: Atomi University Library OPAC and Full Text Database of *ATOMI Kakei's Diaries*

水谷 長志

MIZUTANI Takeshi

要 旨 / 目 次

本稿は、2019 年度、2021 年度および 2022 年度の本学特別研究助成費を基に遂行した標記論題の最終年度の試行的成果を伝えるものであり、謂ゆる MLA 連携の理念およびその成立の背景については、先行拙稿において既述されていることを踏まえ、その理念を本学内において構築するためのトライアルとしてのプロトタイプの実装化を企図とした試行的研究「報告」の範疇を越えない。

すでに繰り返して、2021 年度の特別研究において、前提として述べているように、本プロトタイプは、管理公開等実務実態に即した業務モデルに直系したものではないが、学内 MLA の諸データ・情報・資料が、将来、利活用可能な学内外における共有・共用の教育研究情報資源となると、この MLA 連携のプロトタイプ・システムの有効性は、実効を伴い、より高まるものであることをあわせて図・表を用いて報告する。

1. はじめに—本稿の成り立ちと目的
 - 1.1 アート・ドキュメンテーション学会秋季研究集会における報告として
 - 1.2 韓国太田広域市 Lee Ungno Museum：李應魯美術館による招聘講演の報告として
 - 1.3 本学特別研究助成費による調査研究の成果の報告として
2. 本学において想定された MLA 連携のターゲット
 - 2.1 M に関わるプロトタイプ
 - 2.2 L に関わる既存 OPAC
 - 2.3 A に関わるプロトタイプ
3. MLA 連携の実装プロトタイプ構築のために採用したカーリルについて
 - 3.1 カーリルとは

3.2 カーリルの特徴

3.2.1 カーリル Unitrad API の特徴 (i)

3.2.2 カーリル Unitrad API の特徴 (ii)

3.3 MLA 横断検索画面

4. 成果と今後の課題

註および参考文献

謝辞

附録表

1. はじめに一本稿の成り立ちと目的

筆者の「MLA 連携〔論〕」の萌芽は、本学着任以前、東京国立近代美術館ならびに国立美術館本部事務局情報企画室での実務的实践の中から生まれたものであるが、当時から出講先の慶應義塾大学文学部ほかでの「博物館情報メディア論」を通じて、学部教育での新たなリサーチ・メソッドとしての「MLA 連携〔論〕」へと転調されるとともに、異動後は本学学内の実組織体とそのデータ群である〈花蹊記念資料館 (M) の収蔵資料総合目録データベース〉、〈大学図書館 (L) 蔵書 OPAC〉および〈花蹊日記全文テキスト (A)〉の三者連携システムの構築の実装化を目指して試行的研究を継続した(2018-2022)。

それは当然のこと、学部教育での新たなリサーチ・メソッドとしての「MLA 連携〔論〕」を学内の実組織体としてのMLAの連携に重ねることであったが、本稿は、ここに実装化を射程に置いたプロトタイプの成立を報告することを目的としている。

以下、本稿の成り立ちに関わって、先行したアート・ドキュメンテーション学会秋季研究集会、韓国太田広域市 Lee Ungno Museum：李應魯美術館による招聘講演、そして本学特別研究助成費とその成果報告を列記しておく。

1.1 アート・ドキュメンテーション学会秋季研究集会における報告として

2018年の秋、すなわち本学着任から半年後、アート・ドキュメンテーション学会秋季研究集会(10月13日 於、お茶の水女子大学)での発表題目は、「MLA 連携は学部学生の新たな調査研究手法になるだろうか?」であり、要旨は下記の通りであった。

「MLA 連携の事例を探す」という課題を最終レポートにして、学期最終講義日に選抜された8名ほどがプレゼンテーションを行うというスタイルの講義で、学芸員資格の必修科目である博物館情報・メディア論を慶應義塾大学文学部、東京大学教育学部、青山学院大学総合文化政策学部ほ

かで講じてきた。今春学期には花蹊記念資料館を有する本務校である跡見学園女子大学の司書資格選択科目1単位の図書館基礎特論でも同様の課題を試みた。M (useum) と L (ibrary) の二項関係に加えて、関連する A (rchive) を発見して、A を媒介項とする MLA のトライアングルの構造を構築し、透視することを体験することが、大学学部学生にとっての新たな調査研究手法の開発につながる可能性を拓くことを、実際の課題プレゼンテーションの事例を踏まえて報告し、本手法の今後一層の精緻化と一般化のための課題を提案するものである。

2022年の秋、同じくアート・ドキュメンテーション学会秋季研究集会（9月11日 於、高知県立牧野植物園及びオンライン）において、本稿の前段となる発表をプロトタイプ・システムの構築に関わって実務実行者となった内田剛史（早稲田システム開発株式会社）、吉本龍司（株式会社カーリル）との三者共同発表として行った。

その題目は、「MLA 連携論を素地とする建学者アーカイブの構築の意義と展望—跡見花蹊記念資料館（M）収蔵資料目録データベースおよび大学図書館（L）蔵書 OPAC と花蹊日記全文テキスト（A）の三者連携システムの構築の実装化へ向けた試行的研究から」（以下、「水谷・内田・吉本 2022」）であり、要旨は下記の通りであった¹⁾。

「MLA 連携は学部学生の新たな調査研究手法になるだろうか？」を本学会 2018 年度秋季研究集会において発表した。その後、本務校の特別研究助成費の採択を得て、2019 年度「MLA 連携論を素地とする調査研究メソッドの可能性の検証と開発及び跡見花蹊史資料の MLA 連携横断のための試行的システムに向けた予備的調査」、2021 年度「跡見花蹊アーカイブにおける MLA 連携を内包するシステム構築のための予備的研究 (i) —MA 連携から見る花蹊日記における花蹊ユニーク語彙の出現にかかわる実事例検証の試み」を経て、本年度 2022 年度「跡見花蹊アーカイブにおける MLA 連携を内包するシステム構築のための予備的研究 (ii) —本学花蹊記念資料館（M）収蔵資料総合目録データベースおよび大学図書館（L）蔵書 OPAC と花蹊日記全文テキスト（A）の三者連携システムの構築の実装化へ向けた試行的研究」を実施しているところである。これは研究題目の通り、本務校内の MLA の 3 つの研究情報資源にわたって、横断検索システムを早稲田システム開発・カーリルとの共同において構築する模様を報告し、あわせて大学アーカイブの構築における MLA 連携の課題と展望を述べるものである。

1.2 韓国太田広域市 Lee Ungno Museum：李應魯美術館による招聘講演の報告として

上述の 1.1 節に記した通り、2019 年度において本学特別研究助成費による「MLA 連携論を素地とする調査研究メソッドの可能性の検証と開発及び跡見花蹊史資料の MLA 連携横断のための試行的システムに向けた予備的調査」をもとに、一層の広い文脈で「MLA 連携論を素地とする調査研究メソッ

ドの可能性」を問う機会を Lee Ungno Museum：李應魯美術館、大韓民国大田広域市での国際シンポジウムにおいて得た。発表題目等は下記の通りであった。

「ミュージアムの中のライブラリ & アーカイブで構想した〈MLA 連携〉から大学の教育現場で提案する新たなリサーチ・メソッドとしての〈MLA 連携〉へ」

From 'Collaboration' proposed by the Library & Archives of the National Museum of Modern Art, Tokyo to 'MLA Collaboration' as the New Type of the Research Method for Education in University. Lee Ungno Museum* International Symposium: Museum Human Future, Date: | 2019.12.5(Thurs), 14:00~17:40.

*<https://www.leeungnomuseum.or.kr/?en=Us>

本シンポジウムにおいては、〈MLA〉から〈SLA〉への拡張の萌芽的説明を図1において試みているのだが、このシンポジウムにおけるオーディエンスの反応から確信へと変わり、次節に上げる拙著論考（『人文学フォーラム』18号掲載）へつながった。

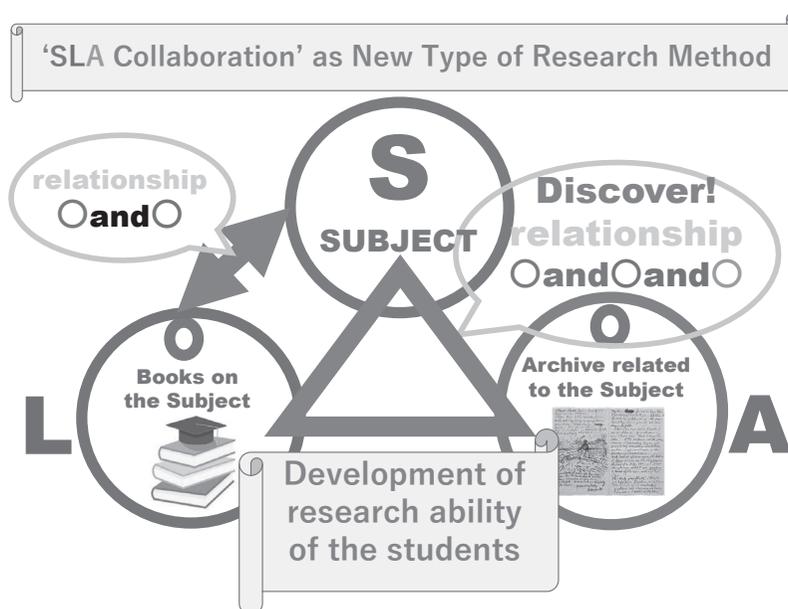


図1：Lee Ungno Museum：李應魯美術館、大韓民国大田広域市での国際シンポジウムにおけるプレゼンテーション・スライドから（2019.12.5）

1.3 本学特別研究助成費による調査研究の成果の報告として

2019 年度本学特別研究助成費題目（1.1 節および 1.2 節で既述）

成果報告（以下「水谷 2020」）：掲載 本学文学部人文学科『人文学フォーラム』18, 2020. p. 76（139）-91（124）.

MLA 連携〔論〕は学部学生の新たな調査研究メソッドになるだろうか？—ミュージアムの中のライブラリ & アーカイブで構想した〈MLA 連携〉から大学の教育現場で提案する新たなリサーチ・メソッドとしての〈SLA 連携〉へ

目次：章および節

1. はじめに—本稿の由来と成立

1.1 MLA 連携〔論〕とは

1.2 MLA 連携の萌芽とその展開

1.3 MLA 連携の関連文献史を展望する

1.4 ミュージアムの中のライブラリ & アーカイブで構想した〈MLA 連携〉から大学の教育現場で提案する新たなリサーチ・メソッドとしての〈MLA 連携〉へ

2. 博物館情報・メディア論および図書館基礎特論における MLA 連携の展開と課題レポート

2.1 学芸員資格課程における博物館情報・メディア論および司書資格課程における図書館基礎特論について

2.2 過去の講義実践

2.3 課題レポート「MLA 連携の事例を探す」を通して探る学部学生の新たな調査研究メソッドとしての MLA 連携

3. MLA 連携の拡張：一般・敷衍化としての SLA 連携への展開の試み

4. おわりに—SLA 連携への展望と期待

2021 年度本学特別研究助成費題目（1.1 節において記述）

成果報告（以下「水谷 2022」）：掲載 本学『文学部紀要』57, 2022. p. 77-107.

MLA 連携〔論〕を素地とする建学者アーカイブの構築の意義と展望—『跡見花蹊日記』のフルテキスト・データベースの構築とユニーク語彙の出現に係る検証の試みを中心に

目次：章および節

はじめに—本学における MLA 連携〔論〕の唱導の点綴

1. MLA 連携〔論〕についての理解の共通前提を築くために
2. MLA 連携〔論〕要諦－論点の整理として
 - 2.1 大学における建学者アーカイブの構築の試み－その概観
 - 2.2 女子大学における建学者アーカイブの構築状況の把握
3. 本稿における「MLA 連携を内包するシステム構築のための予備的研究」に資する解析対象データの概況
 - 3.1 解析対象データの概況把握に係る前提
 - 3.2 把握された本学 MLA である花蹊記念資料館 (M) および大学図書館 (L) の MLA 連携候補の資料について
4. 跡見花蹊日記のデジタルアーカイブ化の基礎ステージとしてのフルテキスト・データベースの構築の試み
 - 4.1 跡見花蹊日記フルテキスト・データベースの構築に係る基礎データの DB 搭載前処理について
 - 4.2 跡見花蹊日記フルテキスト・データベースの検索インターフェースとその検索結果の表示
 - 4.3 跡見花蹊日記におけるユニーク語彙の出現に係る検証の試み
 - 4.4 「揮毫雑記」という花蹊アーカイブと作品検索に係る現況から展望できること
5. 今後への展望と課題 / 謝辞 / 註および参考文献

2. 本学において想定された MLA 連携のターゲット

2.1 M に関わるプロトタイプ

本学の M である花蹊記念資料館からは「水谷 2022」に掲出の表 2:「花蹊記念資料館による既刊冊子体目録における収録作品等点数」の通り、2006 年以來各種の目録等が既刊されている。

2022 年度の本特別研究「跡見花蹊アーカイブにおける MLA 連携を内包するシステム構築のための予備的研究 (ii) 一本学花蹊記念資料館 (M) 収蔵資料目録データベースおよび大学図書館 (L) 蔵書 OPAC と花蹊日記全文テキスト (A) の三者連携システムの構築の実装化へ向けた試行的研究」においては、『花蹊記念資料館収蔵資料総合目録 1-3』(2018-2020) 所載の文字テキストデータ:169 点を Excel に入力した。

なお、「水谷 2022」の後に、さらに『花蹊記念資料館収蔵資料総合目録 4』(2022) が刊行されているが、今回の作業対象とはしていない。

この 169 点の文字テキストデータは、Excel から早稲田システム開発株式会社の I.B.MUSEUM SaaS へ搭載され、2022 年度の特別研究助成費の受託期間においては、独立の Web 検索を用意して、連携システムの構築の一角として位置づけている (図 2-3)。

表 1 はその項目とサンプルデータの一覧である。「贅」以下のテキストデータの充実に特徴があると言える (ただし、本表でのグレー部分はダミーデータ)。

跡見学園女子大学(花蹊記念資料館) 収蔵資料データベース

キーワード 全ての語を含む いずれかの語を含む

資料名

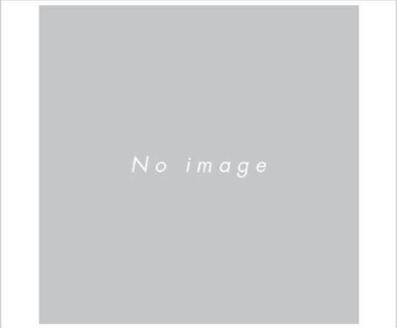
画像有のみを表示

図2：収蔵資料データベース・プロトタイプ〈検索画面〉

跡見学園女子大学(花蹊記念資料館) 収蔵資料データベース

[検索トップ](#) > [検索結果一覧](#) > 資料情報

◀ 最初 < 前へ 次へ > 最後 ▶



八十自壽詩

資料番号 : V1_022
元ID : 資料NO.31
作者 : 跡見花蹊
形質 : 紙本墨書
頁数 : 一幅
寸法 : 133.8×63.0cm・209.0×77.5cm
和暦 : 大正8
西暦 : 1919
賛 :
本文 : 手把金厄喜不禁 五千弟子漸成林/老来自哂猶動苦 又是團葵向日心
款記 : 大正八年第一月八十自壽 花蹊女史
説明書き :
題名(裏書) :
印章 : 引首印「澹泊明志」白文長方印/姓名印「跡見多喜」白文方印/雅号印「華蹊」朱文方印
資料情報典拠: 花蹊記念資料館収蔵資料総合目録1 (2018)跡見花蹊画・書編1

▲ PageTop

図3：収蔵品データベース・プロトタイプ〈詳細画面〉

表 1：早稲田システム開発株式会社 I.B.MUSEUM SaaS 搭載のデータ項目とそのサンプルデータ

資料ID	22
資料番号	V1_022
元ID	資料NO.31
資料名	八十自壽詩
作者	跡見花蹊
形質	紙本墨書
員数	一幅
寸法（図録用）	133.8×63.0cm・209.0×77.5cm
和暦	大正8
制作年代	1919
賛	はなち飼ふ牛ものとかに遊ふらむ（後略）
本文	手把金后喜不禁 五千弟子漸成林（後略）
款記	大正八年第一月八十自壽 花蹊女史
説明書き	「四季のはな」を小屏風に仕立てたもの
題名（裏書）	「藤河原鳥之圖」
印章	引首印「澹泊明志」白文長方印（後略）
資料情報典拠	花蹊記念資料館収蔵資料総合目録1（2018）

2.2 L に関わる既存 OPAC

本学の大学図書館の公開 Web-OPAC (https://atdailib2.atomi.ac.jp/opac/opac_search/?lang=0) を横断検索対象とし、これに関わる一切の負荷および追加的カスタマイズ等は不在である。

「水谷 2022」に掲出の表 3：「本学大学図書館 OPAC から把握可能な筆・画・書など花蹊関与の著作資料の所蔵点数〔類推〕」の通り、「画」「書」など花蹊著作関与の特別資料室に所在であってもものが 136 点確認されているが、2021 年度において所管が、花蹊記念資料館へ管理替えになったことを注記しておきたい（図 4）。

The screenshot shows the OPAC search results for the item '松林山水図 / 跡見花蹊[画]'. The page includes a search bar, a file download icon, and a list of search results. The first result is highlighted, showing the title, author, and a table of holdings.

配架場所	巻次	請求記号	資料番号	状態	コメント	請求メモ
[N]特別資料室(資料館)		721.9/A94	1113664070	除籍	資料館移管のため閲覧不可	

図 4：本学図書館 OPAC 書誌・所蔵〈詳細画面〉

2.3 A に関わるプロトタイプ

「水谷 2022」に報告の通り 2021 年度に構築した花咲日記の全文検索システムは 2.1 節の「M に関わるプロトタイプ」と同様、独立の Web 検索を用意して、連携システムの構築の一角として位置づけている（図 5-6）。



図 5：跡見花咲日記〈検索画面〉



図 6：跡見花咲日記〈詳細画面〉

以上、本章での MLA 連携のターゲットは図 7 のように整理して図示される²⁾。

3. MLA 連携の実装プロトタイプ構築のために採用したカーリルについて

3.1 カーリルとは

「日本最大の図書館検索」を標榜するカーリル (<https://calil.jp/>) はすでに、MLA の文脈で言えば、例えば「美術図書館横断検索 ALC」や公開のミュージアム・アーカイブズを内包する開館間もない大阪中之島美術館において、その効能はすでに遺憾なく発揮されており、本特別研究においても、本学 MLA の横断連携検索の実装において、その技術を採用した (図 8-9³⁾)。

3.2 カーリルの特徴

3.2.1 カーリル Unitrad API の特徴 (i)

- ・カーリルの検索技術の API による外部提供サービス
- ・全国の公開している Web-OPAC には標準対応
- ・I.B.MUSEUM SaaS も標準で連携対応
(デジタルアーカイブや電子書籍などとの連携も増加)
- ・自由な組み合わせで検索サービスを構築
- ・主に都道府県立図書館の横断検索などで活用

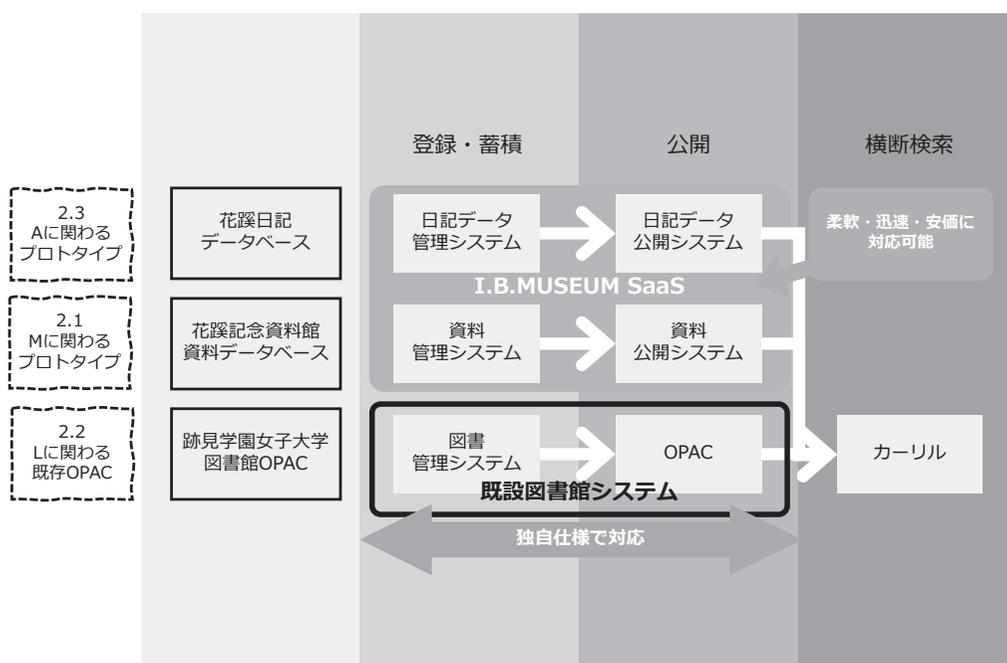


図 7: 本学 MLA 連携ターゲットの連携プラン (試案)



図8: <https://calil.jp/> トップ画面

横断検索（ディスカバリー）層の構築

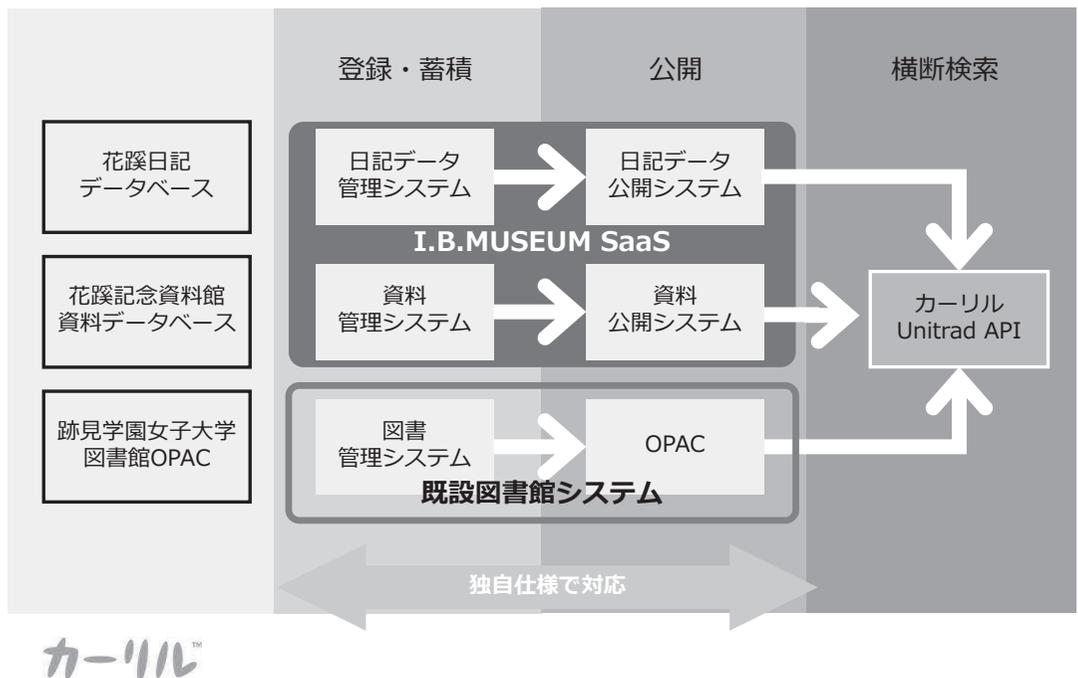


図9: カーリルによる横断検索（ディスカバリー）層の構築

(美術図書館横断検索でもバックエンドとして採用)

3.2.2 カーリル Unitrad API の特徴 (ii)

- ・セントラルインデックス方式・・・速い (ジャパンサーチなど)

データを事前に集めて検索できるようにする。

データを集めるコストが大きい

に対して

- ・横断検索方式・・・低コスト (県立図書館横断検索など)

⇒その都度、各検索サービスから結果を集める⇒遅い、柔軟な検索サービスの設計が困難

- ・カーリル Unitrad API (横断検索+キャッシュ)・・・速い・低コスト

検索で各サイトから応答のあったレコードからキャッシュインデックス (仮想総合目録) を自動的に構築⁴⁾

3.3 MLA 横断検索画面

以下に連携の横断検索システムを Web 上に仮構築した、その検索事例を以下の図 10-15 に示しておく。

跡見学園女子大学・MLA横断検索

コレクションを探す

検索

詳細検索

このサービスについて

以下のデータベースをまとめて検索します。

- 花蹊記念資料館・収藏品データベース
- 跡見花蹊日記・全文検索
- 跡見学園女子大学図書館・蔵書検索

図 10 : MLA 横断検索プロトタイプ (簡易検索画面)

跡見学園女子大学・MLA横断検索

タイトル

著者・作家

出版者 分類

出版・作成年 年から 年まで ISBN

[フリーワードに戻る](#)

[検索](#)

このサービスについて

以下のデータベースをまとめて検索します。

- [花蹊記念資料館・収蔵品データベース](#)
- [跡見花蹊日記・全文検索](#)
- [跡見学園女子大学図書館・蔵書検索](#)

図 11：MLA 横断検索プロトタイプ〈詳細検索画面〉

跡見学園女子大学・MLA横断検索

タイトル

著者・作家

出版者 分類

出版・作成年 年から 年まで ISBN

[フリーワードに戻る](#)

[検索](#)

111件見つかりました。

タイトル	著者・作家	出版者	出版・作成年	情報源
水墨山水柳之図 紙本墨画	跡見花蹊			花蹊記念資料館 → 図13へ遷移可
慶応4年/明治元年四月七日 跡見花蹊日記	跡見花蹊			跡見花蹊日記
明治2年十月廿七日 跡見花蹊日記	跡見花蹊			跡見花蹊日記
明治4年十二月廿四日 跡見花蹊日記	跡見花蹊			跡見花蹊日記 → 図14へ遷移可
明治8年 跡見花蹊日記	跡見花蹊			跡見花蹊日記
明治19年 跡見花蹊日記	跡見花蹊			跡見花蹊日記
明治34年十一月二十一日 跡見花蹊日記	跡見花蹊			跡見花蹊日記
明治41年八月二日 跡見花蹊日記	跡見花蹊			跡見花蹊日記
大正4年十二月二十五日 跡見花蹊日記	跡見花蹊			跡見花蹊日記
八大山人・揚州八怪	米澤嘉重、鶴田武良重		1975.5.	図書館
現代水墨画研究	上海书画出版社編		1999.9.	図書館
室町の水墨画：雪舟/雪村/元信	赤沢英二編集		1980.3.	図書館 → 図15へ遷移可
朝井閣右衛門の水墨画：戦後洋画の巨星	神奈川県立近代美術館編集		[横浜]：神奈川県立近代1991	図書館

図 12：MLA 横断検索プロトタイプ 検索語「水墨」〈検索結果リスト画面〉

跡見学園女子大学(花蹊記念資料館) 収蔵資料データベース

検索トップ > 検索結果一覧 > 資料情報

◀ 最初 < 前へ 次へ > 最後 ▶



水墨山水柳之図

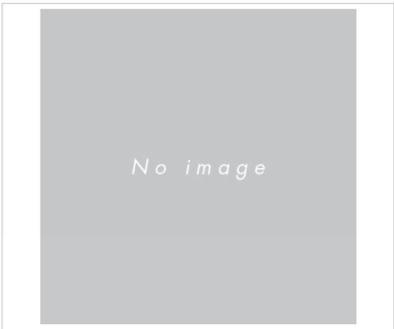
資料番号 : V2_082
元ID : 資料NO.(5-4)21
作者 : 跡見花蹊
形質 : 紙本墨画
員数 : 一幅
寸法 : 130.0×55.5cm・211.0×71.9cm
和暦 :
西暦 :
賛 :
本文 :
款記 : 花蹊瀧女史
説明書き :
題名(裏書) :
印章 : 姓名印「跡見瀧印」白文方印/「瀧」の字のみ陽刻/雅号印「華嶺」朱文方印
資料情報典拠: 花蹊記念資料館収蔵資料総合目録2(2019) 跡見花蹊画・書綴2

▲ PageTop

図 13：図 12 から収蔵品データベース〈詳細〉への遷移結果

跡見学園女子大学 跡見花蹊日記

検索トップ > 資料情報



明治4年十二月廿四日

内容 : (十二月) 廿四日
終日揮毫。御襖三間四枚、二間四枚二金沢八景之図落製。又三間四枚、右間二枚之御襖、水墨四君子之図二かゝる。又一宿。

▲ PageTop

図 14：図 12 から花蹊日記データベース〈詳細〉への遷移結果



ムロマチ ノ スイボクカ；セッシュウ セッソン モトノブ
室町の水墨画：雪舟/雪村/元信 / 赤沢英二編集
(日本美術全集；第16巻)

データ種別 図書

出版者 東京：学習研究社

出版年 1980.3

本文言語 日本語

大きさ 224p：挿図；38cm

目次／あらすじ
 目次・あらすじの電子情報はありません。

所蔵情報を非表示

配架場所	巻次	請求記号	資料番号	状態	コメント	請求メモ	予約/取寄
[N]3F特大本コーナー		702.1/N77/16	0110020690			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
[M]中2階大型本		708/N71/16	0010177434			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

書誌詳細を非表示

図 15：図 12 から図書館 OPAC 書誌・所蔵〈詳細〉への遷移結果

4. 成果と今後の課題

本稿は先の「水谷 2020」「水谷 2022」において、MLA 連携の理念およびその成立の背景が説かれたことを踏まえ、それを本学内において構築するためのトライアルとしてのプロトタイプの実装化を試行した「報告」の範疇を越えない。

すでに繰り返して 2019-2022 年度の特別研究の前提として述べているように、「管理公開等実務実態に即した業務モデル」に直系したものではなく（「水谷 2022」p. 106）、本稿中の図・表の事例もまた公刊・公開の情報資料資源以上のものではない。

未だ公開に至っていない、それは紙・デジタルのいずれにおいても、諸データ・情報・資料が利活用可能な学内外における共有・共用される教育研究情報資源となると、この MLA 連携のプロトタイプ・システムの有効性は、より高まるものと確信する。

しかしながら、現状にあっても、例えば、以下に示す M の作品記述の「賛」「本文」「款記」から花隠日記テキストへの参照を追うことのできた事例、それは本プロトタイプにおいては過少であり、多くの散逸のあることを見込んだとしても、その有効性の発露の一端を示していることだろう（表 2）。

本学内における MLA 連携という、ある意味極小でローカルな関係構造をジャパンサーチの大規模 Portal へ反映する方法が、将来なにかしらあり得るのが、筆者に残されて思考実験を重ねるべき今後の課題と捉えている（図 16⁵⁾）。

表 2 : 「本文」「款記」から花蹊日記テキストへの参照事例

I.B.MUSEUM SAAS 資料ID	87	111	138	160
資料番号	V2_087	V2_111	V3_138	V3_160
元ID	資料NO.(5-5)6	資料NO.(5-7)3	資料NO.H299	資料NO.H316-扁額2
資料名	天盃歌稿	四季山水図「幽篁暁月」	無我	歓喜信楽
作者	跡見花蹊・大口鯛二	跡見花蹊	跡見花蹊	跡見花蹊
形質(技法)	紙本墨書	紙本墨画	紙本墨書	紙本墨書
員数(形状)	朱書	四幅対	一幅	一面
寸法(図録用)	41.6×48.8cm 131.5×62.4cm	146.0×67.3cm 233.5×87.4cm	82.6×34.0cm 173.8×44.8cm	44.5×132.0cm 64.3×178.0cm
和暦	n. d.	n. d.	大正7	大正9
西暦	n. d.	n. d.	1918	1920
賛	n. d.	n. d.	n. d.	n. d.
本文	上段：天盃を賜りたる有かたさに 花蹊/…(中略)…みかへしのおくれたるをゆるしたまひてよ 周魚	n. d.	無我	歓喜信楽
款記	n. d.	幽篁暁月 花蹊女史	大正七年桂花月/中島先生囀/七十九嬭/花蹊瀧書	大正九年晩秋/八十有一/花蹊敬書
賛・本文 ほかの区別	本文	款記	本文	本文
検索語	天盃 周魚	暁月	無我	歓喜信楽 歓喜信楽
検索ヒット数	1	1	1	1
日記ID	16285	2863	16953	18428
年	大正五年	明治四年	大正七年	大正十二年
月日	十二月三十一日	三月二日	十月二十四日	一月二十五日
日記記述	天杯 を賜りたる有かたさに…(中略)…昨日家にかへらさりするために、みかへしのおくれたるをゆるしたまひてよ。 周魚	レン幽篁 暁月 、井上氏より。	無我 の二字、掛物にして、中島君え病気見舞に贈る。	時に、予の筆物一枚せかまれて、ゆるく一枚顔面、 歓喜信楽 の題字を遣す。
資料情報典拠	花蹊記念資料館収蔵資料総合目録2(2019) 跡見花蹊画・書編2	花蹊記念資料館収蔵資料総合目録2(2019)跡見花蹊画・書編2	花蹊記念資料館収蔵資料総合目録3(2020) 跡見花蹊画・書編3	花蹊記念資料館収蔵資料総合目録3(2020) 跡見花蹊画・書編3

n.d.は該当データの不在を示す

課題と展望

一大学の極小でローカルなMLAの関係構造

（MLA under same roof）をジャパンサーチ（MLA in the wild）の
大規模Portalへ反映・維持しながら
公開・提供する方法は？
を考える...が、
現在の課題と展望である。

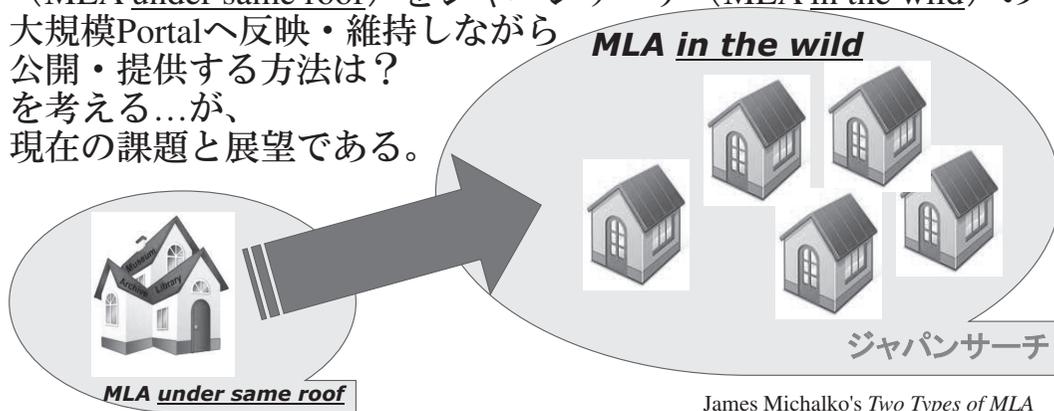


図 16：課題と展望— James Michalko's *Two Types of MLA* の図を援用して

註および参考文献

- 1) 『アート・ドキュメンテーション学会第 15 回秋季研究会予稿集』2022.9.11、同学会刊行、p.13-14.
- 2) 「水谷・内田・吉本 2022」の当日発表スライド（内田作成）を引用して一部改稿
- 3) 「水谷・内田・吉本 2022」の当日発表スライド（吉本作成）を引用
- 4) 本節「3.2 カーリルの特徴」は「水谷・内田・吉本 2022」の当日発表スライド（吉本作成）を引用、続けて吉本は同プレゼンテーションにおいて、「横断検索（ディスカバリー）層の気づき」として、「セントラルインデックス方式 / 横断検索方式 / カーリル UnitradAPI（横断検索 + キャッシュ）のいずれの方式も「どの方式でも検索項目の柔軟な構成は難しい（各データベースの特性や目的が違う）」という指摘をしたことは、今後の MLA 連携のより広範かつ多様な展開にとって極めて重要な指摘である。

また、先行して「カーリル UnitradAPI」を美術館内の MLA 連携に活用した事例が大阪中之島美術館のアーカイブズ資料室である（<https://nakka-art.jp/collection/archive/>）。

松山ひとみ「大阪中之島美術館アーカイブズ情報室について」『カレントアウェアネス -E』No.440, 2022.08.04, <https://current.ndl.go.jp/e2522>

松山はアート・ドキュメンテーション学会年次大会（2022.6.12）においても同「アーカイブズ情報室 開室のお知らせ」を口頭発表している。本論の展開においても多く参考にさせていただいた。

- 5) 図 16 における“James Michalko's *Two Types of MLA*”は、「水谷 2020」「水谷 2022」に既出。

以上の URL はいずれも、2022.11.10 参照確認済み。

謝辞

『跡見学園女子大学花蹊記念資料館収蔵資料総合目録』の利用について、同館のご協力に感謝申し上げます。

実装化にあたってご支援いただきました早稲田システム開発株式会社、同社長内田剛史氏、株式会社カーリル、同代表吉本龍司氏には、アート・ドキュメンテーション学会秋季研究集会での共同発表および本稿の作成にあたって多大なご支援をいただきましたこと、厚く御礼申し上げます。

「カーリル UnitradAPI」を大阪中之島美術館内の MLA 連携に活用した事例について、アート・ドキュメンテーション学会年次大会（2022.6.12）での口頭発表資料をご提供くださった松山ひとみ氏のご協力に感謝申し上げます。

横断検索の事前データ加工から検索にあたっての多大な作業にあたっては、前年度同様本学 4 年生の三宅凜子さん、萩原佑実さん、長橋望菜さんの協力を得ました。あらためて記して、お礼申し上げます。

附録表

「水谷 2022」においては「表 9:『花蹊記念資料館収蔵資料総合目録 1-3』に掲載の 169 作品からヒット件数 1 以上の 50 作品」を掲載した。

本附録表は、同様に、『花蹊記念資料館収蔵資料総合目録 4』（2021（令和 3 年度））に掲載の NO.170-321 の 152 作品（軸・巻物・絵葉書・一枚物・額装・折本（画手本））について、目録掲載の作品名から花蹊日記を検索・参照する試みの結果を掲載する。

『跡見学園女子大学花蹊記念資料館収蔵資料総合目録』に掲載の画像並びにデータ等の第三者の許可なき複製は禁じられている。

本稿は、跡見学園女子大学 2022 年度特別研究助成費に基づく研究成果の一部である。

研究題目：

跡見花蹊アーカイブにおける MLA* 連携を内包するシステム構築のための予備的研究 (ii) 一本学花蹊記念資料館 (M) 収蔵資料総合目録データベースおよび大学図書館 (L) 蔵書 OPAC と花蹊日記全文テキスト (A) の三者連携システムの構築の実装化へ向けた試行的研究

*MLA : Museum, Library, Archive

目録No	作品名	複製品の 複製工具	ヒット 件数	日記記号ID	和暦	月日	日記記述
171	竹園		2	13850 明治四四	二月一日	日記記述 茗説面の都合で「作品名」とその検索範囲以外の部分を適宜省略している。 二月一日 壬寅 水曜 晴。渋木直一氏、面福、及重蘭社、中曾根氏、櫻竹園遊す。	
173	息原院下御前	作者のみ	1	16463 大正六	七月十五日	七月十五日 戌午 日曜 晴。此朝、御所息原院下御前へ召喚五十五、五十一号、千種貞侍様と御杖上願出、直に御目録五千疋御下願相成、有かたも事也。	
173	高麗橋路堂然	タイトルのみ	1	18194 大正十一	六月三日	六月三日 壬寅 土曜 晴。承経しかたとして断て、外に全扉に高麗橋路堂然と七絶を誦す。この花をさよめてまつつうつうつきき君か雪菓の露よかっくと右の返事出す。	
175	日蓮上人「釋世無入語四巻」		4	13898 明治四四	三月十三日	三月十三日 壬午 月曜 晴。兼客、千田勇子、石井初子嬢の入学来る、青森県人長谷川四郎次 日蓮上人遺筆の法華経室四寸の巻物持参して、拝見す。	
175	拳世無人語四恩	タイトルのみ	0				
176	旭日園	図を削除	9	5520 明治一九		御五時睡起。閑窓、則満庭桜花、方院如雪如霰、快甚。乃同花海、茗橋、花園、及朝子、到構園朝、朝桜花、嬌未全開、然松樹開張、晚旭日、実如此勝景何。	
179	花卉園	図を削除	23	2073 慶応四〇/明治元	二月廿日	いろ／＼園の叫びして一酒出、面巻見せられ様。次石田花卉、額之花并、額之花并二巻かりて傳り候。日暮也、参脱して、此花吉田参脱致され、講釈聞、一更後、済。	
180	竹園	171と同題	2	13850 明治四四	二月一日	二月一日 壬寅 水曜 晴。渋木直一氏、面福、及重蘭社、中曾根氏、櫻竹園遊す。兼客、角田氏相佐野虎夫妻御子、其妹入門二来る。安借 間一郎氏より鶴三拜書。	
181	秋草園	図を削除	30	291 文久二	七月十七日	(七月) 十七日此朝、父さま天洲御返え行れ、屋前に降られ候。此朝、榎木町より呼に参られ候て、懸後より榎木津へ参り、花塚原風一松楓草花亭しに参り候。	
182	花鳥園	図を削除	11	273 文久二	六月廿七日	(六月) 廿七日此後、唐津山田さま、雲湧花鳥園彩色美見仕立出来成て参り、それを見せたくと申て参り候重少へ、山田さま参り、面見見する。	
186	四季のほな	花で後森	2	10398 明治三五	六月十二日	六月十二日 丙寅 水曜 晴。この地所ハーフ坪も有て、四季の花ものも有た。今夏御の盛りにて、東にわかまを得たり。またそれより向島の花月花たんに行。	
187	兜園	図を削除	6	832 文久三	十二月十二日	(十二月) 十二日 申十七日故日兜にかゝる。此日、八ツ上りして、釜山先生と兼中身兼に行。此行態、本津え後社に行。夫より御込え行、一呼ばれる。	
188	明治天皇御製「日本魂」		0			明治天皇御大群御式日也。午餐すませ、重二階院臨幸二参る。予、幸子と也。途中通行齋敷、通行切符かけハハ不通と云、風来にてハハ入も不通と云。	
188	明治天皇		14	14541 大正元			
193	松嶺園	図を削除	5	323 文久二	八月十九日	(八月) 十九日此日朝より三間四枚帳素老松嶺園にかゝる。終日遊縁。	
193	松嶺	図を削除	1	2135 慶応四〇/明治元	四月廿一日	(四月) 廿一日 辰 晴、夜雨。庭後、御願へ参願いたし、傳り、運さまより御頼みの櫻二枚診ふ。松竹梅園也。夜、創作。	
197	梅園	図を削除	527	178 文久元	十月十一日	十月 十一日朝より風呂先原屋認物、終日致し、夕方、辻さま風呂敷に参り、早速傳り、五更庭園、文殊物。此日、播州橋より文参り候。	
200	扇面紫陽花園		0				
200	紫陽花	一部	1	11611 明治三八		蒲もはや遅たれと茨山あり。紫陽花、桔梗、天子牡丹、洋花など、さかりにて臨切なとはとても及ばぬ事、方々重通して開。夕餐を喫して八時。	
200	扇面		100	110 文久元	八月四日	八月 四日朝、後藤え参り、終日扇面認物。此日、京華園院さまより文参り候。夜四更芝居書、認物。	
203	緞帳園	図を削除	4	6030 明治一九		午下、三条相公殿緞帳堂於後妻園、翁亦臨観。相公翁先導。後妻園第一門、有通縁。明末人朱年水置也。入園、則樹林翁、僅通一徑、遊湖而行有一大池。	
212	春日園	一部のみ	19	2548 明治三	三月十六日	(三月) 十六日 雨。西の御所二子御留守也。物話して、後藤と申傳芝居り、感感して西の御所へ降り、此坪、蓮華、春日 社え御参詣二子御供いたし候。	
217	蓮華園	図を削除	3	7339 明治二六	九月七日	九月七日 水曜 晴。八十度。朝四時起。行旅ス。朝江詩過より築地西本願寺、火、蓮華堂、太子堂残すの外、悉皆焼失ス。	
226	和歌下書「寄菊况」	タイトルのみ	2	9304 明治三二	八月三十一日	八月三十一日 辛未 木曜 陰雨不定。房州佐久間村北徳雲会高菜山之祝儀二付、題女生徒七絶、梅の哥、寄菊院之三葉を書て贈り。受方簡要 會計より五円。	

附録表：『跡見学園女子大学花蹊記念資料館収蔵資料目録4』に掲載の152作品からヒット件数1以上の50作品

日付	作品名	採集場所の 標本工夫	ヒット 回数	日記記述ID	和暦	月日	日記記述
227	雪見蘭人 (原注 四国編 十通巻(文)と(下)と)		0				日記記述 ※誌面の都合で「作品名」とその様相以外部分を通直省略している。
227	雪見蘭人		132	9877明治三四		三月二日	己卯 土曜 晴。課後、九段坂(空白)行社にて、 雪見蘭人 会衆会二付、参会す。下田雪子、辰村五郎子、小笠原子朝、外二石黒中尉
231	校友余流群		0				
231	祝辞		28	6100明治一九			朝七時夢醒。散歩。押巻。午下、同花壇、森、栄、訪家藏、述説書院。晚、到浴園。岩間、春帆至、雲外重至。
252	桜園		0			九月十日	
252	桜		271	374文久二			(九月)十日此火燒終、夜明也。夫より不二坊参り、薄茶罷。不二坊の紫色、桜の紅葉、真に如顔色、真書写し、夫より又山へ行、松茸拾。
253	笠園		0				
253	笠		7	1810慶応三		五月十六日	(五月)十六日朝ヨリ殿様、輔政、岩倉辺へ成らせられ候。御法談有、聴聞す。夕方 笠 行に、三更迄遊ぶ。一宿する。
254	新年		81	5413明治一九			臘五時、一家団圓、捧飲御酒、以賀 新年 。京橋辺火火。撲詰子、詣三輪崎。往柳小娘園、訪家藏、致賀而帰。旋朝玉歌、萬客不帰。
255	新年山		1	11430明治三三		一月一日	一月一日 庚子 日曜 四方拜。晴。朝五時起。四方拜。如例、糞室にて雑煮を炊く。それより永川神社に参詣して帰。賀客罷々來。歸來て 新年山 の新作讀初す。
259	落葉		5	917文久四/元治元		三月六日	(三月)六日 丙午此早朝、石山殿様より御文下され候。夜雪、霜理 落葉 。御筆遣、尊花白書、菊花恋。此時、五辻様、平松様、ならせられ候。
260	楓		41	825文久三		十二月五日	(十二月)五日 丁丑此日、夕々袋認上ル。十三枚目 楓 にかゝる。此日、辻後室さま、寒氣見舞二冊出被成候。
261	菓の花		2	18163大正一一		五月九日	五月九日 丁丑 火曜 晴。この感遇、地大なるに慶す。夜、梅本堂二部、受信 正朝町典侍様より御文と、姉小路良子さまより 菓の花 つけ。
262	菊	数字なし	456	43文久元		五月廿八日	五月 廿八日朝、後藤参り、相談して帰り、八ツ峠迄歩物、夕庭まで帰り候。此朝、後藤の帰り候、水津さまも登、香合の 菊 認。
268	蘭	数字なし	31	1837慶応三		六月十三日	(六月)十三日宅掃畢済て、朝地聖物三冊対雪月花圖讀、私、花分認ル。式部月分、香園雪/分、*掃事(掃除)
269	白桃	数字なし	1	18508大正一一		四月二十一日	四月二十一日 甲子 土曜 晴。予記 午下四時より蒲井白御招待。御政儀祝巻出山 榮権筆 中島山水 榮権筆 石白桃鳥 徐麗筆 小島雪竹
270	梅	数字なし	527	178文久元		十月十一日	十月 十一日朝より眞田先原殿認物。終日致し、夕方、辻さまも入原殿に参り、早速帰リ、五更迄讀、又雑物。此日、蒲川橋より文参り候。
271	竹梅	数字なし	16	1241元治二/慶応元		一月廿四日	(一月)廿四日此日、半切山水二枚認、石山様への三冊対松竹梅認、又雑物認。此夕より、近藤子、内匠子、父さま、典膳子、私と合伴、詩哥
272	梅の花	数字なし	1	5486明治一九		一月廿三日	田村氏田圃畔に居かれ、三条雪室君様、番君様はしめ女弟(子)十四人を括して行。梅花開、和尚口占、立並田の 梅の花 よりも花見る人のうらみしかな
274	小菊	数字なし	16	6628明治二五		一月十三日	一月十三日 甲辰 水曜 晴。此日、堀御殿、紅梅典侍、早蕨典侍、花松典侍、藤袴典侍、小菊典侍、藤袴典侍、楓葉典侍、吉田掌侍、物品を贈ル。
277	薔薇	数字なし	8	6229明治二一		五月七日	開成式。朝堂玄園入口及毎室に灯籠をかゝく。すへて後室に 薔薇 花を挿み、第一室讀附所、五之則に数百之椅子に令據せたる。
279	大根	数字なし	13	22文久元		五月七日	五月 七日朝、後藤さま参り、読書済て帰り候、辻さまも登候。此日、大根さまも御こし遊し、私、大木に留られ候。
280	枇杷	数字なし	7	7246明治二六		六月十八日	六月十八日 日曜 晴。早起。終日揮毫。山崎一節求。藤田氏より慰慰一巻。山崎五来より蕨葉子一箱。*起思 枇杷
281	柘榴	数字なし	7	7379明治二六		十月十二日	十月十二日 水曜 晴又雨。朝五時起。行旅。課業如例。朝読辺より林檎一籠。中村敦子より蕨葉子二重。五軒町重蔵より柿、 柘榴 、くみ。
282	紫陽花	200冊定と同じ	1	11611明治三三		十月廿七日	蒲もはや過なれと哀山あり。紫陽花、桔梗、茨子牡丹、洋花など、さかりにて親切なとはとても及ばぬ事。
285	麦	数字なし	41	422文久二		十月廿七日	(十月)廿七日朝、辻さまより帰リ、尚餘物少。御筆巻、色々酒宴有。一更二帰リ、二更三臥。
286	桃	数字なし	656	910文久三		二月廿九日	(二月)廿九日 庚子此日、風物より嵐山先生へ行。此道、天王寺野へにて、ふと方かく助道、行と/ 桃 花のみにて真に踏踏桃認の如シ。
292	芙蓉	数字なし	10	818文久三		十一月廿八日	(十一月)廿八日 辛未朝、中之島参り、七枚目桜認上ル。八枚目 芙蓉 二かゝる。夜四更迄行図。此夕、辻さまも寒氣見舞持参する。
295	椿	数字なし	23	488文久三		一月三日	(一月)三日朝明六時、雑煮食ふて、床了斎藤五行之図、花入竹二重切紅白梅、白梅、シヤワウウ梅、後室手前済て、私一手前する。
297	紅梅	数字なし	19	831文久三		十二月十一日	(十二月)十一日 癸未此日、水津参。花(白玉椿 翠紅梅)、御茶(むむかし 詰)、菓子(藤島蘭頭)。
298	梅と薔芝	数字なし	0				
298	薔芝	数字なし	2	13442明治四三		二月二十八日	二月二十八日 甲子 月曜 晴。課業例の如し。本日より試験讀二かゝる。受信 斎藤梅平より 薔芝 、福島龍竹、着。
305	百合	数字なし	23	419文久二		十月廿四日	(十月)廿四日 丸橋、辻さまより帰リ、子達をへして、辻さまにて身こしらへて、向(赤茶 菊田 太左衛門作 若狭もとも小菊)、汁(百合 根 かわ竹 からし)
306	風景	数字なし	14	2752明治三		十一月二十五日	(十一月)二十五日 晴。朝五更、四時立て、宇津の谷越、月清光。三傳の松原、あし高山、五はさつた峠、東は不二の高山にて、跡もつも湯の 風景 也。
310	柿	数字なし	60	2072明治元		二月八日	(二月)十八日 申。朝、母さまも同道にて備宅いたし候。此時、津州福清記、小笠原部来。明日備田の取巻に來。縁前柿一箱くられ候。
314	桔梗	数字なし	4	11611明治三三			蒲もはや過なれと哀山あり。紫陽花、桔梗、茨子牡丹、洋花など、さかりにて親切なとはとても及ばぬ事。方々遊歴して歸。